

第39期第3回静岡県社会教育委員会

令和7年4月24日（木）

○委員長

ただいまから第3回静岡県社会教育委員会を開催いたします。前回の委員会後に調査の設問に関しまして、たくさんの御意見をいただきありがとうございました。昨年度末にワーキングを開催し、皆様の御意見をもとに調査案を作っております。議案として上がっております。そのことも含めまして、本日も様々な角度から忌憚のない御意見、御質問いただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは本日の次第について確認をします。

最初に事務局から令和7年度社会教育課所管事業について説明を受けます。続いて第2回社会教育委員会と3月末に開催されました第1回ワーキンググループの概要を報告します。その後、協議に入り、まずこれまで整理してきた多様な社会教育人材についてのイメージを共有させていただきます。

その後に、今日は委員から事例発表をしていただき、社会教育人材について、皆さんと一緒に理解を深めていきたいと思います。その上で、最後に社会教育人材に関する調査について、事務局の方で質問内容や回答方法、選択肢等について案を作成していただきましたので、そちらについて御意見を伺いたいと思います。本日も委員の皆様の御協力のもとに円滑に会を進行していきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、令和7年度県社会教育課所管事業について事務局より説明をお願いします。

○事務局

令和7年度教育行政の基本方針と教育予算について、私の方から説明させていただきます。資料1を御覧ください。静岡県教育委員会では令和7年3月に策定された新たな静岡県教育大綱に基づき、未来を切り開く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現に向けて、学校、家庭、地域等との連携協働のもと、令和7年度は下記の取組を重点的に推進します。子供たちが将来にわたり幸せを実現できるよう、一人一人の個性や感性を大切にして可能性を伸ばす教育により、夢の実現を支え、社会全体の Well-being を目指します。地域の方々との関係を築きながら、社会総がかりで取組を推進していきます。静岡県の教育の基本理念を実現するため、基本方針とする4つの教育施策の柱のもと、教育委員会が一体となって取り組んでまいります。4つの柱の中で社会教育課が関係する3つの柱を御説明いたします。

第1章、未来を創造する力を涵養する教育の推進では、読書県しずおかづくり総合推進事業を展

開し、県民一人一人が生涯を通じて読書を楽しむ習慣を確立した読書県しずおかの構築を目指し、読書ガイドブック「本とともにだち」を配布活用、そして子ども読書アドバイザーの資質向上を目的とした養成を行ってまいります。また、「本とともにだちプラン」第三次子ども読書活動推進計画。こちらが、改定時期となりますので、今後協議を行います。

第2章になります。「全ての人の学びを支え、力を引き出す教育の推進」では、ネット依存への対策として、ウェブシステムを活用したネット依存のセルフチェックの促進や、多様性を強みとした自然体験回復プログラム等を実施します。

第3章「地域ぐるみで取り組む教育の推進」では、地域の教育力向上推進事業として、地域学校協働活動推進員等の養成、社会教育行政職員や市町社会教育委員、公民館職員等への研修を行ってまいります。地域学校協働活動推進事業では、地域学校協働本部の設置運営充実と一体的に推進し、地域ぐるみで子供を育てる体制を構築してまいります。社会教育関係団体育成事業については、前回の会議で補助金等の審議をしていただきましたが、こちらの団体への支援をしてまいります。家庭教育支援事業は、家庭教育支援員や家庭教育支援チームの活動を推進するなど、家庭教育支援の充実を図ります。青少年健全育成事業については、体験活動や啓発活動の実施とともに、カウンセリング機能とフリースペースの機能を備えた、アンダンテの運営を行うなど、子供若者の支援を推進してまいります。時代を担う青少年育成事業では、青少年団体に対する支援を行ってまいります。

最後に、青少年の家等の管理として、県内各所の青少年指導員の育成や、多様な体験活動の実施、そして焼津青少年の家などの運営を行ってまいります。今年度の当初予算額は、満足できる配当とは言い難く、限られた予算となりますが、効果のある事業に絞り込んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○委員長

今の説明の中で、御意見、御質問等、ありますでしょうか。

○委員

第3章の(2)にある地域学校協働本部の設置というのは、これは新設なのか、これまでもあるものをさらに充実させるのか教えてください。

○事務局

課長代理の長谷川と申します。地域学校協働本部は、これまでも継続して実施している事業となります。市町の小学校単位あるいは中学校単位のところで設置を目指しているものでありまして、今、県内では大 80%ぐらいの設置率となっております。この設置率をもう少し上げていくための支援員の養成であるとかそういった活動に今年も取り組んでいきます。

○委員

当該事業のうち、高校が活動していることはありますか。

○事務局

高校の場合は、小中学校と違いまして、地域の方とのつながりがまちまちであるものですから、コミュニティスクールとの一体的推進ということで、社会教育課で行っている地域学校協働本部とは別に、高校教育課の方から指導があると思います。

○委員長

次に第2回社会教育委員会の開催結果について、概要を事務局から報告をお願いします。

○事務局

お手元の資料2を御覧ください。第2回社会教育委員会では、令和7年度社会教育関係団体への補助金の交付について説明をし、その後、委員から質問を受けました。

次に第1回社会教育委員会の概要について報告をしました。その後協議では、今期の課題に関わる具体的な社会教育人材について、第1回から議論してきたイメージをさらに深く共有できるよう、各委員から御意見をいただきました。皆様の御意見は資料3の2に整理いたしました。

続いて、お手元の資料3の1を御覧ください。第1回ワーキングでは、まず社会教育人材を幅広く捉えていくこと、4象限で捉えつつ、右上に移行するために必要なことを考えていくことを確認いたしました。

その後議論では、各委員から集まった質問案をもとに、主に調査開始、質問数、質問内容、回答内容、選択肢について検討し、調査案を修正しました。各内容は資料からお読みください。調査案は資料4に整理いたしました。以上です。

○委員長

今、第2回と第1回ワーキンググループの概要ということで、この時点では、ワーキングで得られた意見の聞き取りと、第2回のところは、皆さん御出席に沿ってしているので、このまとめだと漏れがあるというところがあれば御指摘いただければと思います。内容についてはこの後の協議にほぼ含まれていきますので、そちらで御意見を伺いたいと思います。

○委員長

それでは、協議に移ります。本日は3点です。まず本委員会として捉える多様な社会教育人材の整理についてです。第2回委員会の概要資料を元に資料を作成しました。皆さんの御意見を元に作成した資料ですので、共有させていただきます。事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局

資料3の2を御覧ください。第1回、2回の委員会で出された皆様からの御意見を資料に整理いたしました。

協議の前に、本委員会で考える社会教育人材の在り方について確認させていただきます。地域社会には多くの地域人材が存在するが、活動する場において役割を持った人が人材となることを確認しています。必要と考える人材は学びの場を作る役割と、学びの場を広げる、支える役割に大きく分類しており、個人の特性や得意分野に応じて役割を担うことが想定されています。

下図は、縦軸を社会教育についての知識、横軸を社会教育への意欲として、人材のタイプを四象限で考えることができるのではないかという意見を受けて図式化したものです。

裏面は、属性の異なる複数者が協働しながら役割を分担する仕組み作りとそのための繋ぎ役の存在が重要であるという意見を受けて、これを可視化したものです。事務局からの説明は以上です。

○委員長

皆さんの意見を事務局が図式化してまとめてもらったものです。人材を限定した物に捉えず、学びに関わる様々な立場の人、仕掛ける人だけでなく参加する人も含めて全てを人材と広く捉えていこうということです。様々な人たちを類型化するにあたっても、3ページ左下の委員委員の御提案のように、2つの軸を作り、人材のタイプ分けをすると分かりやすいのではないかという事で、今後参考にしていきたいと思っています。

ここで協議として挙げた理由は、人材を決定するためではなく、今後の調査にあたって、委員と

して人材のイメージや意味合いを共有したいからです。皆さんの考えを縛るものではありません。最大限効果的に共有しましょうという事でまとめたものです。大雑把なまとめですが、こういう見方もあるとか、私の意見を追加してほしいなどがあればコメントしてください。

○委員

下の「学びの場を広げる・支える」のところで、支える人を、人材としてフォローシップを発揮する人と、その下に、行政等の知識を有する人がございます。特に学校教育に関わってくださる方々と社会教育との共通点を考えると、行政だけの知識では無く、その事象に関わる知識を有する人と捉えた方がより、縛りがなくなるのではないか。この「行政等の」というのは、なくていいのかなと考えていますが、どうでしょうか。

○事務局

ここについては、何か事業を起こすのに、全く予算も知らない、そのルールも知らない、その知識、周りにどのような方がいるとか、そういう様々な知識を知らない人がやると、ねらいと違う方向に行ってしまうという話からこの言葉が出てきたと思います。ですから、社会教育ということでもいいですし、ただ知識っていうと、何の知識なのかとなりかねないので、「社会教育に関する」というところに留めておくなり、予算とか、そういう対外的な事業の知識だと思うので、それを、社会教育に繋げていける知識があればいいのかなと私は思って、ここに行政等と書きました。これは要するに我々の事なのかなと思っております。

○委員

そもそも行政の中で扱う社会教育、そういうことで、社会教育委員会が進んでいるのかなという個人的なベースから考えた時に、やはり社会教育を、いわゆる公立学校、そういう事のもとにある社会教育ということを考えると、やはりその行政等という知識、プラスその学びに関しての専門知識という事で、社会教育行政のもとで行われる社会教育というものが成立するのかなというイメージを私は持っております。その中ですと、『行政等の「等」の中に、その専門知識的なものが多い』というイメージでいかがでしょうか。

○事務局

下に、世の中の仕組みや行政の組織というのを、細かく説明した理由は、我々のような行政であ

ったり、社会教育委員さんのような、行政とちょっと繋がりがある方だったり、そういったところが、フォロワーに入っていただく、もしくは支える人に入ってもらった方が広がるのではないかという考えです。委員のような、考えでよろしいかと思います。

○委員長

委員、どうぞ。

○委員

今のお話しについては、諮問内容の中で第12期中央教育審議会生涯学習分科会の議論が引用されていますが、そこでは、社会教育行政が人々の学習活動の支援を通して地域コミュニティの基盤を支える上で、社会教育主事をはじめとする社会教育人材には大きな役割が期待されているとされています。この分科会の議論の内容を諮問内容に引用した上で、社会教育委員に諮問がなされています。その趣旨は、社会教育行政をまず中心に据えた上で議論してほしいということでしょうか、ここでは「行政等」ということでもいいのかと思います。

ただ、行政だと少し狭い感じがするなら、「社会教育に関する知識」とか、そういう言い方にするとよいのではないかと思います。「等」ということ自体が質問内容から外れることはないと思いますが、後はイメージです。

○委員長

委員としては、学校教育の知識、広く教育や学びの知識も、あってほしいというイメージの御発言だったでしょうか。

○委員

社会教育は学校教育の外で行われているものという始まりでしたが、話を聞いていくうちに、学校のコミュニティスクールを踏まえて、学校教育と社会教育の境目が曖昧になってしまったので、この発言になりました。

今回、社会教育的な質問に近づけていくにあたって、行政等ということ自体、先ほど皆さんから話があったように、社会教育、社会教育行政、学校教育だけでなく、広く市民の学びを支える立場として社会教育委員が活躍するのではないかなという意見です。

○委員長

ありがとうございました。

では、表現を社会教育行政等といった表現にしてはどうか。

○委員長

等が目立つ感じの表現にするということで。行政だけじゃないよという表現というか、共有にさせていただければと思います。これ、いろんなとこに出す書類ではないですが、少しここの表現も、今の議論がちゃんと分かるようなものに換えていければと思っております。

○委員

もし、「等」を目立たせるのであれば、前を例示にすればよいので、具体的な例示をもう一つ増やせばよいのではないのでしょうか。具体的には、社会教育行政云々というよりは、「社会教育や行政等の」とすると、「等」が目立つという形になります。技巧的な話ですけども。

○委員長

では、それでいきます。ありがとうございます。大変助かります。

○委員長

そのほかはよろしいでしょうか。

これからまた議論を進めていく中で、これを膨らめていく形、出発点の共有で御認識いただければと思います。

今日はおそらく、これが皆さんが最も関心を寄せている部分かと思しますので、次の議題に移らせていただきます。委員からの事例発表と、それに基づいた意見交換をしていきたいと思います。

それでは、委員、発表をお願いします。

○委員

最初の事例発表者が私でよかったのかなと思ながらも、お話をさせていただきたいと思います。裾野市立南小学校CSディレクター兼スクールコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。

この写真、南小学校を表から撮っている写真になります。

裾野市立南小学校ですけど、2006年、裾野西小学校から分離新設校として、比較的新しくできた、本年度、20年目の学校です。ちょうど新設で第1回の入学式をやったときに、私の第一子がここで入りまして、新1年生として入学し、その後、PTAの各種役員とかPTA副会長、平成23年度にPTA会長をやって、その後、前任のコーディネーターからバトンタッチをして、コーディネーター14年目になりました。楽しく頑張ってます。

これは、裾野南小学校のグランドデザインです。令和2年までは、「共に輝く豊かな子」が学校の教育目標でしたけど、児童だけではなくて、教職員も保護者も地域の方全ての人が目指す姿であるよねという話が会の中でなされまして、令和3年度からは、学校教育目標が「共に輝く豊かな人」に変わりました。

本年度の学校経営目標は「だれ一人取り残さない学校」「話をしっかりと聴く人の育成」です。実は「話をしっかりと聴く人の育成」が、去年、「来年度の学校経営目標をこんなふうにしたい」と思ってます。職員会議でこんな話が出ました」と言ったときに、この人って実は子だったんです。学校運営協議会のときに、これは「子」ではなくて「人」ではないかという意見が出されて、令和7年度は話をしっかりと聴く人、それは子供だけではなくて、先生方も地域の人も地域同士も地域と子供もというところで人の育成になりました。重点目標は「たかめ合い、挑戦する」。このような学校にするために、教職員、先生方は何ができるのか、また保護者は何ができるのか、そして地域は何ができるのか、それぞれの立場で考えていっているのが裾野南小学校です。

裾野南小学校を語る上で欠かせないのが、地域学校協働本部である夢と輝きの教育推進会です。平成18年が開校なので、19年からある会です。開校2年目からです。このような方が出席します。区長さんですとか、支援協力者は主に旗振りの方、夜のパトロールの方とか、そんな人たちがいます。

全員が参加することはあまりないですけど、それぞれお立場があって忙しい方たちですので、でも、全員が出席すると50人程度が来る会になります。学校運営協議会のメンバーはもちろん、地域学校協働本部のメンバーも多様な人に出席していただいています。多様な意見が出るだけではなく、地域とか年齢層とか性別がそれぞれですので、多様な方への発信力にもなるかなと思っています。

そして、子供たちが参加する会もあります。各区の区長さんとか各種団体の会長さん、シニアクラブとか子供会の会長さんは毎回参加。一般の先生方、管理職は必ず、校長と教頭は必ず出席ですけど、教務の先生から下の先生たちには、年に1回は参加していただいています。どんな雰囲気でお話しているのかを知っていただくために参加してもらっています。これをファシリテーション、

コーディネートするのが、夢と輝きの教育推進会の中での私の役割です。

学校運営協議会は年6回、裾野南小の場合は行っています。4月、5月、7月、10月、1月、2月、大体このくらいで毎年やってます。

地域学校協働本部である夢と輝きの教育推進会は年に4回開催されます。学校運営協議会をやった後に、夢と輝きの教育推進会をやるようにしています。学校運営協議会のメンバーも、必ず夢と輝きの教育推進会のメンバーでもあるので、そちらにも全員に参加してもらっています。

第2回目は、必ず子供参加型の会にしています。これも19年の歴史の中でいろいろありまして、当初は夜に子供参加型をやっていたんですけど、習い事で来れない子だったり、前後の行事がすごく忙しくて、地域の人がたくさん出てくる行事があったりするものですから、何とか1回にできないかというところで、7月にやっている子供参加型は、6年生の交通安全リーダーを語る会と同日開催にしています。前半戦を6年生の交通安全リーダーを語る会の時間とし、後半戦を夢と輝きの教育推進会の時間。前半戦は6年生の交通安全リーダーを語る会の時間に費やし、午後は地域の人と、主に6年生となりますが、子供たちとの地域のことや学校のことを話し合う時間にしています。

子供も大人も一緒になって学校とか地域の話合いをします。夢と輝きの教育推進会の前に学校運営協議会があるので、そこで話し合われたことが、すぐに夢と輝きの教育推進会で反映できるのが、この仕組みのいいところだなと思っています。

子供参加型が2回付いてるかと思いますが、10月の夢と輝きの教育推進会の1週間前に、5年生から、「地域の人との話合いがそろそろあるんじゃないか、そこで僕らプレゼンしたいから、時間欲しい」という直談判があって、急遽、開催した会です。先生方はもちろん、子供たちも地域の方が南小学校を中心とした話合いの場があると知っているので、子供たち自身から会議に参加したいという声があったり、その場を使って、自分たちの学んでいることを地域の人に理解してもらいたいという場に使う場合もあります。子供たちは私の家を知ってるので、車があったら来ます。

学校運営協議会とか夢と輝きの教育推進会では、必要に応じて文科省の動画とかニュースを流して、画面にあるような資料を使ったりして、地域住民が学校現場の抱える課題に対して、理解を深める時間をつくることもあります。また、夢と輝きの教育推進会は、学校の問題だけではなくて、地域の課題も含めて情報交換をしながら協議をしていきます。この会は意見を出して終わりの会ではありません。全てではないですけど、出た意見で可能なことは何か検討し、実行していきます。

どのような会議でも同じですけど、私のほうで大切にしていることがありまして、可能な限り出席者全員に発言していただけるように場を回すこと。どうしても時間の都合でそういった時間が取れないときは、「〇〇委員さんのお立場からはどうお考えですかと問いかけ、委員の皆さんに順に

御発言いただくようにしています。

そうすることで、声の大きい人とか地域の重鎮、特定の方の意見が一方的に通ってしまうようなことがないよう配慮しています。そうすると、発言したら実現するかもしれないとか、ほかの人と共有することができるかもしれない。身近な喫緊問題だけど、解決の糸口が見つかるかもと当事者意識を持ってもらえんと思っています。それを実体験していただくと、年度職で、1年で役を替わってしまう方も、この会が流れることになっても、取りあえず、委員に話してみようかな、夢と輝きの教育推進会ときに話題にしてもらえんかもと、つながりを持てるようになって、南小学校を中心としたいろいろな活動に、興味・関心を継続的に持ってもらえんのではないかなと感じています。

こちらが、夢と輝きの教育推進会の様子です。ちょうど子供参加型です。子供参加型のときに、毎年毎年、どんなことをやるかを話し合っていくんですけど、子供たちが質問をしたいときは、個別に自分たちでメモ用紙を使ったりすることもありますし、中には時々、付箋とか模造紙を使ってグループワークをするときがあります。そういうときには、出来上がった模造紙を、学校内の広いホールがあるんですけど、そこに掲示をします。先生方や子供たちや来校者、保護者、地域の人が見えるようにして、どんなことがこの会議で話題になっているのか、関心を持ってもらえんようにしています。

十何年とやっている中、過去のワークショップでの意見とか、日頃の井戸端会議の中の話で、地域の方から、子供たちを含めた交流の時間が欲しいんだよという声がありました。それって地域の方だけなのかなと思っていたら、実は子供たちも同じように、地域の人ともっと何かできるんじゃないかという声があって、それをきっかけに、土曜日とか放課後に、希望する人、希望する子、希望する地域の人が学んだり遊んだりする場を設けるような活動を、地域が協働本部事業として、地域学校協働本部が主体となってやっています。地域の人にとっても、子供たちにとっても、子供と大人と一緒に活動することはハードルが低い地域だなと感じています。それは、学びの場だけではなくて、遊びの場も同じです。

コーディネーターとしては、もちろん1年を通した総合学習の伴走支援とか、授業のゲストティーチャー、学校行事に必要な備品の調達とか授業の支援、そんなこともしています。

この後、地域学校協働本部が主体となって活動を進めている、日中とか放課後、土日に行われている事業とか、地域の方も主体的に学校に関わってくれる様子を紹介したいと思います。

左上の写真です。地域の方がふらっと学校へ寄ってくれたときに、2年生の図工の授業で人手が足りなさそうだと感じて、授業の様子を見て必要を感じた地域の方が、先生に声をかけた上で支援に入ってくださった様子です。先生、大変だね、暇だから手伝おうかと言って、入ってくれたときの

様子です。

真ん中は、ミシンボランティアさんがいるんですけど、ミシンの授業だけではなくて、カーテンの修繕とか給食台のカバーの修繕。あと、南小学校、毎年、1年生に本バッグというバッグをプレゼントしているんです。このバッグの作成をしてくれたりしています。

右上、学校の畑をトラクターで耕してくれてます。今週か来週、天気を相談したら、もう一回、通称“田舎のベンツ”とも呼ばれる赤いトラクターが活躍します。学校の畑は、トラクターで耕してくれたりするだけじゃなくて、シニアクラブさんが1年を通して支援の管理をしてくれるので、夏場の草取りとかもみんなやってくれてます。子供たちも一緒にやってますけど。

この畑の横に、学校でウサギさんを飼っておりまして、ユキちゃんという白いウサギさんです。平日は4年生が飼育当番でお世話をするんですけど、土日とか夏期休暇、長期休暇は、ユキちゃんサポーターさんがいらっしゃって、皆さんがサポートをしてくれるので、日直の先生がお世話をする必要がありません。地元の動物病院の先生がユキちゃんのサポーターさんになってくれていて、ユキちゃんがけがをしたときとか、病院にかかりたいなといったときには、無償でユキちゃんのサポーターさんになってくれているので、大変ありがたいです。

下の左、校区内にアトリエを持っていいらっしゃる方もいらっしゃるんです。自宅に物すごい数の貯蔵されている本物の絵画があるんですけど、自宅なのでアトリエに展示するのがほんのわずかだというところで、南小の廊下に本物の絵を飾ってくれているんです、先生たちはすごくドキドキしています。本物なので、触っちゃうんじゃないかと、ドキドキしながら飾ってくれています。子供たちだけではなくて、来校者、地域の方が楽しんでいる姿があります。

右側、トイレ掃除に使う備品も保護者とか地域から寄附で賄っています。掃除の日は週3回、月・水・金、ボランティアさんに入ってもらってるんですけど、これも、来れる人が来れるときにできることをやってくればいいよと話をしてあるので、集合時間に一人しかいなければ一人でやれることをやってもらう。特に、一人のときは低学年の一番近いお手洗いを中心にやってください、5人集まったときには手分けしてやってください、10人のときにはいつもより念入りにやってくださいという感じで、できる人が、できるときに、できることをしていただいています。

下の真ん中、任意加入で、お父さん、おやじの会といわれるような、うちはダディーズと呼んでるんですけど、学校行事とか地域行事で様々な活動を通して活動する、地域の縁の下の力持ち的な存在です。現在は、活動に賛同した女性メンバーもダディーズで加入して活動しています。子供が小学校を卒業してもレジェンド枠がありまして、レジェンド枠で残ってくださっている方がすごく多いです。御自身の得意分野で現役の保護者の支援をして、地域と若手とのつなぎ役にもなってく

れています。

運動会の様子ですけど、運動会とか競技の用具出しとか片付けは、用具担当の先生が一人だけそこにいるだけで、あとはダディーズのメンバーが整理します。先生方は子供たちの支援に専念してもらおう。よく半分ぐらいの先生方が用具出しとかゴールテープを持ったりして、残りの半分の先生で子供たちを身守るのが通常かと思うんですけど、うちの場合は、基本的に先生も支援員も全部子供たち、級外の先生だけが用具のところにおいて、あとはダディーズでやります。片付けもダディーズと保護者で全部、運動会もテントとか椅子とか、そういうのも全部やるので、先生たちは子供たちに専念してくださいという形で、保護者も協力してやっています。

このダディーズですけど、地域の様々なお祭りで、スーパーボールすくいとか、地域から依頼を受けて出店に行くんです。その日に参加できる人だけが対応してお店を出すんですけど、その収益って保護者会の収益になるんです、バザーとして。ちゃんと様式を作って、地域の人からダディーズに出店を依頼しますって、依頼書があります。その依頼書には、その収益は地域へ返す、南小学校保護者会へ寄附するというレ点を付けるところを作っています。南小の収益に、保護者会の収益になるようにして、子供たちのものを買ったりですとか、地域との活動に使えるようにしたりしているところです。

飲み会だけの参加のお父さんももちろんいます。私もダディーズのメンバーも異業種交流と呼んでいるので、お父さんたちの異業種交流だと思ってやってくれています。最近だと、小学校の先生をしている保護者が、おもしろいと言って入ってくれるケースがすごく多くて、うれしいなと思っています。

これは、平日の放課後に希望する子と地域の方が参加する漢字検定チャレンジクラブの様子です。左側の写真がお勉強してるところで。白髪のおじいちゃんが準2級に1回落ちちゃったんです。すごいがっかりしていて、どういう勉強をしたらうまくいくんだろうと子供たちに相談してるところです。子供たちは7級とか、もちろん8級ですけど。おじいちゃんなので、辞書をひくと、止めるのかはらいなのか、よく分からないと言うんです。小さくて。それを子供に聞いたりするんです。一方で子供は辞書をひこうと思っても、最近タブレットなので、辞書をなかなかひかないです。そうすると、おじいちゃんが辞書のひき方を教えてくれるんです。学ぶ人とか教える人とか教わる人が、時々逆転しながらするような時間帯です。

ブルーシートが貼ってある、真ん中のこれ、これは漢字検定の本番の様子です。70代のおじいちゃん。70代の人に。シニアさんと5年生の男の子が隣で受験をしたり、その後ろには、1年生の女の子が緊張した面持ちで初めての受験に挑んだり。1年生の女の子が緊張していると、前のシニア

さんが、「大丈夫だよ、じいじも緊張してるから」と言って声を掛けてくれ、とても素敵な時間です。

左下の写真が、オセロを楽しむ会。ただただオセロを楽しんで帰るという放課後の事業です。この左下の帽子をかぶってるおばあちゃんが、オセロの会をやりたいという言い出したのですが、裾野市シニアクラブ、オセロ大会で優勝したんです。シニアクラブさんのシニア同士だと、私に勝てる人は誰もいない。おもしろくない、誰とやっても私が勝つ。子供たちとやりたい。じゃあ、やったらいいじゃんで始めました。オセロ教室、オセロを楽しむ会を開くんです。このおばあちゃんのところに子供たちがいっぱい並びます。

でも、時間は限られてて1時間ぐらいしかないので、せいぜい4人か5人ぐらいしか対戦できない。前回やった人は、ほかの子に遠慮して、僕は前回やったからいいよと譲ったり譲り合ったり、子供たちの中でもしています。

右上が卓球部です。最初は南小卓球部として立ち上げた卓球の時間です。土曜日にやっているのですが、元南小学校の校長先生が顧問をしてくれていて、自分が住んでいる地域はここではないのですが、南小だったらこういうこともできるんじゃないか。もともと中学校畑の先生で、卓球部を、長年、顧問していた先生で、また、いずれ自分が管理職を終えて、自由な身になったら地域の人と卓球を楽しみたい。それはどこでできるかなと振り返ったときに、「南小だったらそれできるじゃん、やらしてくれないか」って言うから、「どうぞどうぞ、やってください」って言って、やっています。

この春にNPO化しまして、裾野市の部活動の地域移行の受け皿になっています。会場は裾野南小の体育館になっているので、子供たちは中学生とかと一緒に練習ができる。地域の人とか大人もここに練習に来るので、本当にたくさんの人たちが来て、楽しんでいます。

右下は走り方教室です。私が高校卒業してから陸上の審判の資格を取りまして、ずっと陸上をやっているんです。私が教えてもおもしろくないので、私の後輩で、はい、「やって」って言ったら、「イエス」か「はい」しか言わない人があるので、その人に来てもらって、教えてもらってます。ちょっと違うお兄さんとか、ちょっと違うお姉さんに教えてもらうのってうれしいですね、子供たち。

走り方教室やると、本当に運動会かというぐらいみんなが参加してくれて、中学生のボランティアを頼むとたくさん来てくれます。広くボランティアに呼びかけすぎると100人ぐらい平気で集まっちゃうので、学年を絞って、この行事は2年生とか、この行事は1年生にという形でやっています。保護者会主催の行事も中学生ボランティアを募集して、その日だけじゃなくて、企画とか準備、

当日の運営、そういったものも一緒にやってもらいます。小学生は、中学生になったら、ああやって運営側に回りたい、大人と一緒に企画したい、当日の運営をしたい、格好いいと言って、中学生を尊敬のまなざしで見えています。

中学生ボランティアの募集なども、つなぎ役であるコーディネーターの私が行います。私、保護者の顧問も務めているので、地域、学校、保護者、そんなつなぎ役をするのが私の仕事かなと思います。

ほかにも、プール清掃を地域の人とやったり、あとプールの身守りボランティアもしてもらったり、私はうろうろ組見守りボランティアなんて言ってますが、小学校の先生は分かるかと思うんですけれど、最近、なかなか教室でじっとしていられない子がたくさんいるかなと思います。裾野市立南小学校は支援級がなくて、通級はやっと今年設置になったんですけど、支援級がないので、ちょっと気持ちが落ち着かないなという子がうろうろすることよくあるんです。でも、地域の人たちが廊下をうろうろ、同じようにしてくれているので、そっと声を掛けて、寄り添ってくれて、子供たちを身守ったりしてくれています。

草刈りとか草取り。草刈りは、平均すると1か月半に一遍ぐらいは地域の人がやってくれます。それでも追い付かないです。草取りは、右下がそうですけど、シニアクラブさんが月1回必ず、門周辺、校門周辺は草取りをしてくれるので、かなりきれいです。

右上がユキちゃん、ウサギさんの小屋の修繕や、ペンキ塗り。左下が、ベンチとか直してるところです。グラウンドの整備やペンキ塗り、壊れた備品の整備とか、たくさんいろんなことで地域の人にお世話になっています。作業してると、グラウンドへ遊びに来た子とかが作業に参加するのはよくあることです。あと、地域には写真のような人がたくさんいて、いつの間にか草が刈られたりとか、昨日、ここ壊れてたよねというところが直ってて、直しといたよということは多々あります。

これは、秋に行われている南小学校の校舎内を使った地域の文化祭の様子です。地域の方、子供たち、保護者、先生方が、日頃の趣味の作品を校舎内に展示して、多くの方が来校してくれます。休み時間には子供と地域の方が談笑したり、聞いたかった地域のことを子供たちが質問したり、先生方と地域の方が話をしたり、それまでつながっていなかった大人同士がつながったり、趣味を通して人と人のつながりが広がっていくのがこの文化祭のいいところです。

右のつるしびなですけど、つるしびなが、最初の年とその次の年、子供たちがやりたいやりたいと言ったので、つるしびなを作る教室をやってみようと言って、昼休みに開催をしました。昼休みを使うので、昼休みがなくなっちゃうじゃないですか、これを作ると。子供、そんなに来ないと思って、10人とか20人来ればいいのかと思ったら、最初の年、何と半分が申し込んでくれまして、

150人ぐらい来ちゃって、どうしようかと思って。

急遽、ボランティアさん増やして、学年ごとに作る時間を変えて。ボランティアさんが、針が上手な子ばかりじゃないだろうから、布ボンドでも作れるような型紙を作ってください。それでも、6年生で針が怖い子は布ボンドでやるし、1年生でも針にチャレンジしたい子は針で作る。全員同じ型でやったのに、フクロウを作ったんです。四角い子がいたり、長細い子がいたり、丸っこい子がいたり、太っちょな子がいたり、いろんな種類のフクロウさんができて。それを2つ作って、1個はおうち用で、1個は学校用で、学校の中にそれを展示したり。2年目もやりたいて、ウサギさんを作ったりして。

こっちが今年は困っちゃって、ウサギとフクロウは簡単ですけど、それ以外は物すごく大変で面倒くさいので、子供にはできないから、ちょっとどうしようかって、今年はボランティアさんたちと考えてるところです、やれないと思っていて。子供たちはやってほしいみたいなので、やれそうなことを考えてみようかなと思っています。

これまで、最初の10年ぐらいは私一人がこつこつやってきたんですけど、裾野市は令和4年度から裾野市全体としてコミュニティ・スクール事業を始めてくださって、ディレクターを1名以上置くことができると決まりができましたので、私以外にもう一人ディレクターを選出し、合間のこととか大まかなことは私が調整をして、もう一人のコーディネーターが細かな調整、例えば、この班にどの地域の人を入れるか、授業支援のときに。場所とか時間、微調整をしてもらうことにしました。

息の長い活動にするために、先ほどのオセロとか漢字チャレンジも、日程や時間は水曜日の放課後とか月曜日の放課後と固定しています。学校行事とか祝日と重なったら、それはやらない、無理をしない。なぜかという、日程とか時間の調整が大変で、後釜が見つかんなくなっちゃうんです。それを仕切ってくれるというか、キャプテンになってくれるような人が見つからないので、余計は手間暇を掛けないとしています。

参加は自由です。子供は、一応参加登録はしてもらいます。さようならと言って教室を出た後に、会議室とかに行って過ごしてしまうので、保護者が心配をしますので、登録した子だけが参加できる。でも、地域の方は絶対に参加しないければならないとかじゃなくて、来たときに名簿に丸を付けてくれればいい。無理やり地域の方の参加を増やさない。力が入り過ぎると息の長い活動になりにくいと思ってるので、口コミで本当にやりたい人が参加してくれる。やった人がおもしろいなと思ってお友達を連れてくる、それで少しずつ人を増やしています。

皆さん、よくお分かりだと思うんですけど、何とかお願いして来てもらおうと、私が替わっちゃっ

たら参加者が減っちゃうんです。委員だから来て、しょうがない、行くかとなってしまうと、コーディネーターが替わったときに持続可能にならないので、そうならないようにしています。できる人が、できるときに、できることを心がけています。

学校の先生たちにも、私の人脈はやたらと駆使はしませんと断言をしています。コロナ禍のときには、どうしても難しいとか、急に全てが止まってしまったとか、そういうときには人脈を駆使します。自分の人脈とかそういったものは駆使しましたが、それ以外のときには、私だからできることは基本的にはやりませんよと言いつつ。最初はそれを使ったとしても、必ず持続可能なやり方に仕組みを変えていきますよというお話をして、やっています。

失敗したこともあります。授業支援、ミシンの支援にシニアさんが入ったんですけど、私が事前に丁寧に説明をしなかったばかりに、先生に口出しをしてしまって、授業がちょっと崩壊しかかってしまいました。こっちのほうがりやすいわよと口出しちゃったんです、ベテランさんだったので。でも、学習指導要領で決まってることがあるじゃないですか。必ず子供に伝えなきゃいけないことがあるから、そこは駄目なんだよと、その後できちんと説明をする時間を取るようにしました。

あとは、ボランティアさん集めなきゃと頑張り過ぎました。ボランティア、ボランティアと言ったばかりに、地域の人に、学校は体のいいただ働きが欲しいだけだろと言われてしまいました。今は、ボランティア、ボランティアは言わないようにしています。地域の人が来たくなるような学校づくりとか、地域の人が行きたくなる、いつでも行ってもいいなあって思えるような仕組みづくりを心掛けています。

学校という場所が、来る方によって、居場所となったり、活躍できたり、認めてもらえたり、あと、誰かに必要とされるような場所であると感じてもらえるような仕組みづくりとか声掛けが重要かなと思います。

さっきも写ってたんですけど、左の写真で木材を使ったパズルが写ってると思うんです。最近まで大工さんとして働いていたシニアさんが、自宅に残った木材を使って、趣味で木工細工を楽しんでたんです。すごいたくさん作ってらっしゃるので、ぜひ学校に飾ってよと言って、飾ってもらったんです。

これ、パズルなんです、左。なかなか大きい大きい木材のパズルです。こんなの絶対子供はできないだろと言って、意気揚々と持ってきたんですけど、さっき話をしたうろうろしてる子。その子は10分足らずで組み立てたんです、これを。校長先生もすごいびっくりしました。

「おじさん、これ、おじさんが作ったの？俺、攻略しちゃったよ」って、そのおじさんに声掛け

たんです、楽しかったって。そしたら、そのおじさん、それ以来、毎年、文化祭が終わると、1年掛けて翌年の作品を作ってくれたんです。これがないと、多分困っちゃいます、そのおじさん。そのために1年掛けて5作品も6作品も作ってくれる、すごい頼もしい子供たちのヒーローのようなおじいちゃんです。

毎年、消しゴムはんこ作品を出してくれる方がいらっしゃるんですけど、この方、先生からお願いされて、お便りとかテストに使う似顔絵はんこを作ってくれたり、先生たちの勤務時間が終わった後に、先生たちから依頼を受けて、消しゴムはんこ教室を会議室でやってくれて、先生たちの余暇活動として楽しむ時間ができたりとかもしています。

活動に参加する人のほとんどが、腕をまくって、さあ、俺は今から学校のお手伝いをするぞとか、よし、社会教育に寄与しようと思って来るんじゃないです。ほとんどの方が、自分が楽しくて、活躍できる場があるからと言って学校に来てくれます。実は、それがその人自身の生涯学習の場であったり、子供たちへの社会教育であったり、学習意欲の向上につながったりしているんだなと思っています。ただ、地域の方にとっては日常の一コマです。

いろんな会議に出席させていただいてまして、先日も保護者会の総会に出席してきたんですけど、そのときにも言ったんです。誰か一人が100頑張るんじゃなくて、皆さんが1つでもいいので、やれるようなことを、やれそうなことをやりましょう、それで100にしましょうねと言っています。できる人が、できるときに、できることを、一人が1ずつ頑張って、みんなで100にしていこうねと言っています。これが、ここまで長く無理なく続いた活動の秘訣かなと思っています。また、関わった1を楽しく感じて、もう1以上足そうかなという人になるような関係づくりができると、関係人口も増えていくのかなと思っています。

今後も、さらに学校を核とした地域づくりを通して、学校が、子供たちや先生方、保護者、地域の方をはじめとして、南小学校に関わった全ての人の居場所となって、また、多くの地域の方だけでなく、企業もそうですね。そういった方にも、南小学校という場所が多様なロールモデルを提供できる場所であることを知ってもらいたいなと思います。多くの人と出会うことで、人と人の化学反応が起きる場所であってほしいと思います。

これ、去年の6年生と地域の人と、来年の20周年、どんなことをやってみたいというのをグループワークしたときの模造紙です。本年度も、地域の方、子供たち、保護者と先生方で、周年事業について企画を、今、進めています。

実はそれに加えて、それまで南小学校に授業支援として関わってくださった企業とか団体の方が、それぞれ南小の活動に共感をして、勝手に企業同士がつながり始めて、「うちの会社も、そういえ

ば南小に行ったよ」「僕のところも行ったよ」、支援さんでみたいなのがどんどんつながって、勝手に企業同士がつながって、南小の子供たちや地域を対象にした、キッズニアならぬミナミッザニアをやりたいと言って、企業の団体さん、企業さんたちが私に申し出てくれて、この冬にやろうという計画を、今、進めているところです。

それは、もちろん保護者会でもなければ、学校行事でもないので、企業のそれぞれのサービスとしてやってもらうので、先生方にも、ぜひ自分のお子さん連れて、ミナミッザニアに遊びに来てねとやっています。地域の人たちにもオープンにするので、地域の人にも楽しんでもらえるような計画を立てられたらいいなと、今、少しずつやっています。

南小学校に関わることで、もしかしたら企業にとっても、地域貢献にもなるし、宣伝にもなるのかもしれない。でも、それでもいいと思っています。保護者も、もしかしたら知らなかった企業を知って仕事に行くかもしれないし、子供が知らなかった仕事を知って、そういった仕事に興味を持って、将来仕事に就く子がいるかもしれません。企業同士がつながって、新たなサービスにつながるものもあるかもしれません。そういったものもありだと思っています。

まだまだ紹介したい事例がたくさんあるんですけど、今日は、地域の方が得意なことを披露する場であったり、子供たちと共に学んだり遊んだりする中で、生涯学習みたいにしていく方がいたり、学校が、子供だけではなくて、地域の方にとっても遊びの場である南小を紹介しました。

私個人としては、学校を核とした地域づくりを意識しながら、今はプレーヤーとしてやってるんですけど、将来、現役をリタイヤしたら、私は向こう側に行きたいなと思っていて、今やっている活動を向こう側で楽しみたいなと思っています。

学校は、子供たちの安心・安全が絶対に守られるべき場所だと思いますけど、一方で、公共物でもあると思っていますので、学校教育だけではなくて、家庭教育、社会教育、生涯学習の場にもなるのかなと、コミュニティ・スクールの活動を通して考えています。

今後も、子供たちや先生方、保護者会や地域の方、南小に関わってくださっている全ての方々が、お互いを必要し、気軽にやってみよう、やってみたい、応援するよと言える関係であり続けられるように調整をしていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○委員長

わくわくするような発表だったと思います。後の時間があるので、5分間ぐらい、ここの委員会のテーマに即して何か質問、人材あたりで質問等があれば、今、御発言いただければと思います。

いっぱい聞きたいことはあると、それはまた別途、委員に聞くことにして、何かあれば。

○委員

裾野といえば、今、トヨタの未来都市のウーブン・シティが話題ですけど、南小学校とウーブン・シティの位置関係、距離関係を教えてください。

○委員

裾野南小学校は裾野市の一番南側、本当に最南端になっています。ウーブン・シティはどちらかというと北部に当たるので、少し遠い、子供の足ではちょっと行けない、電車です。裾野南小学校の最寄り駅が、長泉なめり駅が一番最寄り駅になるかなと思うんですけど、そこからだと二駅行った岩波駅が一番近いので。

でも関係は、いろいろと御協力いただいている企業さんとか、岩波駅周辺にも企業地があるので、その企業さんたちも、たくさん授業支援とか、いろんな支援をしてくださってるので、そういった方々も、今回のミナミツザニアにアンテナ高く張ってくださっています。

○委員長

学区ではないということね。

○委員

そうですね。全く学区がというと、そうではないところがあります。学区の企業さんももちろんいらっしゃいますし。本当に小さい学区です、学区だけでいうと3地区の子供たちが集まる小さな学区ですので。裾野市を全ての支援の対象としているので、車で30分ぐらいかかる方も、自分の学区だと思うように協力ができないけど、南小学校は敷居がすごく低いので、やれるよねと言って来てくださる方もすごく多いので。モデルケースにしてもらって、ちょっと慎重に進めている学校には、いいですよとアピールして。でも、そこってあなたの地元の企業さんですよといろんな学校に発信をして、その方たちが地元でやれることができるように支援をしていきたいなと思います。

○委員長

そのほか、いかがですか。委員、お願いします。

○委員

御報告、ありがとうございました。

さっき、さらっとおっしゃったのですが、10年間、一人でやってきたけれども、コミュニティ・スクールになって、ディレクターを1人置けることになりました、増やしましたとのことでした。ただ、これは、そう簡単なことではないかなと思います。もう一人、自分と一緒にやってくれる人を探すというのは、まさにこういったことをやる上で一番大変なことだと思うのですが、どういう方が協力してくださっているのか、ちょっと教えていただけませんかでしょうか。

○委員

もともと南小学校の保護者で、たまたま私の中学校のときの先輩でして、頼みやすかったのはあるんですけど、ほんわかしたすごく優しい感じの方です。私のように積極的に動くタイプではなく、穏やかで優しい雰囲気の方だったので、チームとしてバランスがとれると思いお願いしました。

何人か思い当たる方が3人ぐらいいまして、最初にその方が顔思い浮かんだので、その方にチャレンジしたら、いいよと二つ返事で、即答で、お手伝いできるよと言っていたので、その方をお願いしています。

その方が、ちょっと家庭の事情で、この1年で御退任かなというところでして、第二候補の方が、いいよと言ってくださってるので、その方が引継ぎ準備をしているとこですね、今。

私はもうちょっとやれるので、もう少しだけやります。

○委員

どうもありがとうございました。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員

委員、学校と地域が一体となった事例発表、ありがとうございました。

1点、お聞きしたいことがあるんですけど、夢と輝きの教育推進会が、イコール地域学校協働本部と考えればよろしいですか。

○委員

そうです。もともと夢と輝きの教育推進会があって、後から地域学校協働本部をくっつけたんですけど、そのものだよねというところで、うちは夢と輝きの教育推進会が浸透しているのでその名前を使っていますが、地域学校協働本部で大丈夫です。

○委員

本当にお聞きしたかったことはこの後ですけど、14年とかコーディネーターを非常に長くやられてて、地域と一体となってやられていたと思いますけど、地域のほうも10年以上経てば、いろいろと学校とかに協力してくださる人材も変わってきてると思うんです。そこのところでも、最初は知ってる人が協力してくれたけど、だんだん歳とってくる人があって引退するよという人が出てきて、新しい人も協力してくれてると思うんですけど、その辺、うまく引継ぎというか、人材を引き出すような工夫みたいなこと、何かやられたんですか。

○委員

特段工夫をしてるというよりは、アリさんの集団と一緒に、たくさん集団がいたら、上位層にやる気がある人たちがいて、やる気があまりない方たちがいて、中間層がいて、この上の10%をどのくらい引き上げるかで、真ん中が引き上がってくると、一番下が、あれあれ？いや、ちょっとはやらないとなとなっていくのが、少しずつ引き上がってきて、やってく人が増えていった感じです。

あとは、活動していて楽しい。ダディーズもレジェンド枠で残ってくださってる方がいて、子供が南小学校にいないのにもかかわらず、人が足りなそうだったら、俺行くよって言ってくれる人がいたりするのは、その場が楽しいから、行けば楽しいというのがあるから。別に旗振り役が絶対に必要ではなくて、ちょっと手伝うのに旗振り役が必要ではなくて、行けば何かしらやれることが、俺が役に立つことがあるよねと常につくってあるので。気軽に参加できるのが、一番いいところなのかなと思います。

それが少しずつ少しずつ増えていくと、いつの間にか自立してって、その人たちが何となくイズムみたいなのを伝承していつてくれて。ああやってたらうまくいったから、俺もやってみたら、うまくできましたよみたいな感じになって、何となく場を回していつてくれる後継者っぽい人たちがたくさん出てて、勝手に任しとけば事後報告で全部私のところに来て、あたかも私がえらくちゃんとやったみたいになってるけど、そんなことは全然なくて、みんながやってくれてる感じになっている。

熱く、いろんな会合に行ったときとかに語ることは大事だなと思って、足しげく通って、いろんなところで話をして、イズムを少しずつ浸透して、入れてってる感じです。

答えになってるかどうか。

○委員長

委員、お願いします。

○委員

お話、ある意味、理想型だなと思って伺ってたんです。すごい技術的なこと伺ってもいいですか。連絡方法って、来れる人が来ればいいとか、やれる人がやればいいとなると、そもそもそういう人たちに、何月何日にこんなことやるから来てほしいよって呼び掛けるとか、最初にそういう人をつかまえるとか、なかなか今、個人情報も難しいときですし、不特定多数の方にどうやって呼び掛けてらっしゃるのかなって。

○委員

保護者の場合は、もちろん学校から、例えば来週の火曜日の祝日の日に、急遽、グラウンドの草取りをすることにしたんです。あまりにも草原のようになってきたので。それは、学校から全保護者に、地域学校協働本部の人たちがやってくれるから、地域支援者がやってくれるから、来れる人でいいので参加して、子供だけで参加オーケー。夢と輝きの教育推進会とか地域学校協働本部と、あと学校運営協議会のメンバーが、声掛けられる人に掛けるなど勝手に声を掛けてくれるので、その中で来た人でやる感じです。

口コミで広げてもらう感じですか。あとは、それぞれのLINEとかSNSを駆使してもらって、個人情報が出ないように。でも、南小でやるから来てねといろんな人に声掛けてねって言うと、皆さん、はいよってやってくれるので、そんな感じです。

○委員長

そのほか、よろしいでしょうか。

また、個人的にいろいろ聞きたい方、委員をつかまえて聞いていただければと思います。

今日は、本当に貴重な発表をありがとうございました。

○委員

ありがとうございました。

○委員長

それでは、この発表の内容もベースに置きながら、（３）社会教育人材に関する調査について協議をしたいと思います。

第１回ワーキンググループの資料と調査案を基に、調査の設問内容や選択肢等について、ちょっと時間がないので、特に設問の大枠を今日は御了承いただければと思います。

案につきまして、まず事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは説明させていただきます。お手元の資料の４の１を御覧ください。

地域で社会教育を担う人材の現状調査としまして、案を示させていただきます。

まず目的は、地域における社会教育を担う人材の実態と、活動を取り巻く現状や課題を明らかにし、今後の人材育成や課題解決に向けた方向性の基礎資料とすることです。さらに、本委員会で、この調査を協議の中でどのように活用し、どのようにフィードバックしていくかを示していければと考えております。対象、調査方法、回答の期間、回答方法は前回から変更ありません。

続いて、資料４の２には、第１回ワーキングでの議論を踏まえて、設問例と回答方法、選択肢のたたき台を示させていただきました。設問のポイントは大きく３つあります。現状をどう感じているか、あるべき姿をどう考えているか、どのような人材が必要かを上げさせていただきました。今回は設問内容や回答方法、選択肢を中心に御議論をお願いいたします。

説明は以上です。

○委員長

調査に関した、冒頭から申し上げているように、皆様から様々な意見をいただいたわけですが、調査の大きなフレームとしてどうするかをワーキングで考えたときに、現状を聞くのが一番大切な調査の目的になりますか。ただ、現状を聞くだけだと、私たちがこれから報告書をまとめてくときにはちょっと足りないなということで、実際、その活動をされてる方たちが、その現状に対してほんとはどうしたいのか、社会教育活動をどういうふうに展開し、どういう地域社会にしていきたいのか。そのゴールに向けて、この現状とゴールの間では、社会教育人材となる人、その人をどうい

うふうに活動してってもらいたいのか、そういう活動を仕掛けるためにはどういう人たちにいてほしいのか。そうなるためには、市町などはどうサポートしてほしいのかの設問を考えました。そこに、皆さんが聞きたい内容を落とし込んでいったつくりになります。

それなので、資料4の2の設問1、2はフェイスシートになるので置いといて、設問3が現状把握です。設問4が、活動されてる方たちがどういうところを目指しているのか。設問5が、そういうふうになるなら、どういう人材を求めているのか。設問6は、社会教育委員と行政職員に聞くので、社会教育委員さんたちは行政にどんなサポートをしてもらいたいのか。

先ほど言葉が足りなかったもので、行政側の方たちも、皆さんにはどんなふうに活動していただきたいのかを聞く。あと、今の委員の発表もそうですが、既に、活発にいろんな方たちが動いてる地域もおありと思いますので、そういう事例が、うちはこうやってやってるんだからとか、何でもこんなこと聞いてくるんだとか、いろんなお考えはあると思いますので、それは自由記述で問7に書いていただく。大きな設問としては7問という案にいたしました。

その中で、選択肢が黒とか白の四角でなってるのが1つずつ、選択肢になっています。選択肢設けないと、なかなかその後の意見も、回答の集約等が困難になってきますので選択肢を設けてあります。大枠はこういうものになりますが。

最終的にこの案を出すに当たってワーキングで検討してきましたので、副委員長と委員、補足があればお願いしたいですが。

○委員

今、全体のお話は委員長からの説明のとおりですけど、私自身は、この選択肢ではまだまだ改善の余地はあるのかなと思ってますので、ぜひ皆さんから、これは重複してるんじゃないかとか、これは抜けてるんじゃないかという意見がいただけるといいかなと感じております。

以上です。

○委員

補足することはないですけど、1か所だけ、設問5の一番上の四角、伸ばし棒を入れたほうがいいのかと、リーダシップでなくて、リーダーシップのほうがいいんじゃないかな。それぐらいです。

○委員長

ワーキングの報告のところで言い忘れたんですが、最終的に、どういう人材で、どういう社会教

育活動を私たちは目指してるかみたいなのが、イメージ図みたいので出せたらいいねという話にはなあって。委員の発表スライドにもあったんだけど、木がいいかねって。学びの木が、葉っぱが生い茂って、みんなが学んでるよという木の、例えば幹は土からいろんなもの吸い上げて、支える人とか。鳥がいろんな情報を運んでくるよとか。フォロワーシップな人もいるし、支えてる人もいるよみたいな、ぱっと見て、いろんな関わり方ができるんだなみたいな、そういうのが最後ゴールとしてできたらいいねという話は出ました。

でも、木と言ったら、委員のスライドでも木が出てきたから、木はイメージ図としていろんなところに出てきますね。新奇性はないけれど分かりやすい、この木を育てるのに皆さん関わりましたよみたいな。図を見てあなた、この役できますよみたいな、そういうイメージ図があったらいいかなというところも、ワーキングでは話題になったことを加えておきます。

○委員

その木の話ですけど、木を育てるのに、水が要るし、もちろん土も要るし、実りがあればなおいいし、実りを目指すことだし。

もう一つ、鳥ですけど。できれば鳥が巣を作ってくれて、そこから巣立った子たちがまた戻ってきてくれるような地域づくりになればいいなと、雑談ですけど、そんな話もしました。

○委員長

今、思い出して、すみません、こんな遅くに申し訳ないです。

そういうこともイメージして、でも、その根拠になっていくような現状をはっきり理解したいための調査になります。

先ほど、副委員長から付け加えたんですけど、設問の構成については、ここで御了承いただければ、大変ありがたいと思います。選択肢については、まだまだもむ必要があるかなとワーキングでも思っておりますので、そういうことで御意見をいただければと思います。

私の進行もあんまりうまくなくて、20分ぐらいの時間ですが、皆様から御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員からお願いします。

○委員

大変抽象的なテーマかと思いますが、具体的に述べていただき、ありがとうございます。

設問6については、7つ選択肢がありますが、どちらかというところ、社会教育人材に当たる人が、いろんなものをつくっていく力などのスキルを求めているのかな、あるいは、どういうスキルがあるというのかなということを念頭に置きながら見ると思います。

4番目の情報の共有の質問については、恐らく意図としては、そういった議論をする場を自らもつくり出す人というイメージで受け止めたのですが、この質問文だけをぱっと見ると、そういう議論の場を用意する、実際、みんなが集まる場を用意すればそれでよいと見えなくもないので、もう少し工夫をした方がよさそうです。

議論の場の確保というのは、意図としては、恐らく議論の場を設定するというか、そういうことをきちっと構築できる力を持っている人が必要かどうかを問うているのだと思いますが、それが、議論をするために公民館を借りますとか、そういう場所を確保してくれる人がいるならありがたいと思われてしまっても困るのではないかと思います。ぱっと見た感じの印象だけでして、実際にそう捉える人はあまりいないとは思いますが、ほかの6つの質問に比べると少し違和感を覚えます。ただ、今すぐどういう表現がよいのかと言われても困るのですが。以上です。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

委員、お願いします。

○委員

今、委員が、議論の場というところ、実際の場所をイメージしてしまうのではないかなという感じでしたかね。そうすると、議論の機会の確保的な表現にすると分かっていたかきやすいのかなとも思いました。

というのと、設問5の中の4つ目が、若手、20代・30代の意見を取り入れてまとめる人材があるんですが、今、現状として、シニアの方以外とか退職した人たちの居場所がないであるとか、様々な社会課題がある中で、ここで若手の意見を取り入れることに絞った理由が、根拠みたいなものがあるならば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○委員長

後継者養成みたいなところも絡んで、若手という言葉が出てきたかなという記憶ですが。

○事務局

この若手というのは、文の切れ目が難しいですけど、若手の人でということ。その中で意見を取り入れてまとめる人材がほしい、若手の中にそういう人が欲しいと捉えていただければ、逆に通るのかなと思います。

○委員

そうすると、社会教育の担い手育成に役立つというか、そういう目的的なものがないと、単に、20代・30代にもっと社会教育に参加してくださいよみたいなイメージで捉えてしまうのかなと。例えば、社会教育の担い手育成に役立つ意見を出せとか、そういう表現のほうが分かりやすいのかな。

例えば、20代・30代の意見を取り入れてというのであれば、各世代の課題に注目して意見をまとめられる。その辺りのニュアンス、背景が分かるような設問にしたほうが、回答する人のバックグラウンドもばらばらなので、我々のこの設問の意図が分かるところまで説明した回答、選択肢にしてあげないと、私たちのアンケートの意図と違う回答が返ってくる可能性があるなと思いました。選択肢、これから検討の必要があるということでしたので、選択肢の中に我々の意図を明確に酌み取って、回答してもらえそうな工夫が必要かなと思いました。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員

御説明を聞いて、ようやく分かりました。20代・30代の意見を取り入れてまとめる人材というのは、委員委員のような、ちょっと年上の方が若手の意見を取りまとめる人材というイメージで受け止めていました。そうではなく、若手の中で、それぞれその同じ世代の意見を取りまとめるような人材が欲しいということなのですね。

そうすると、表現だけの問題かもしれませんが、少し工夫が必要だと思います。恐らく、最初に私が申し上げたようなイメージで捉えて、年上の方を想定される方が多いように思うので、同じ世代でということを知るようにした方がよいのではないのでしょうか。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

今日、まだ御発言されてないお二方は先に御意見いただければ。

委員からお願いします。

○委員

現状調査の、そもそも最初に来たときに、私は答える側ですけど、すごい何をどう答えていいかわからないなって、そもそも。先ほど委員がおっしゃったみたいに、この背景が、アンケートをする側が欲しい答えが出るようなアンケートを取りたいのか、それとも率直な意見が欲しいのか、どっちなのかなというのが分からなかったんで、最初に意見をくださいと言ったときも、うまい意見が出せなくて申し訳なかったんですけど、その辺りがもう少し見えると。

私も以前アンケートを作ったときに、地域の方からアンケートを取ったときに、欲しい答えじゃない回答とか、書き方によっては、考え方が皆さん全然違うので、その人の考えで書いちゃうので、みんなが共通して理解できるような言葉で作ったほうがいいなと思いましたので、同じ意見で。

以上です。

○委員長

委員、お願いします。

○委員

今、大変確信に触れる重要な御意見が出た後で、また細かい話で恐縮ですけど、先ほど、若手のところで発言が続いたところ、私、ちょうどそこに丸を付けていまして。若手という中に、今、18歳でも成人ですし、選挙権もありますし、20代から30代という具体的なくくりが、はみ出しちゃった人は関係ないのかなみたいにもなってしまうので、ここは各世代、多様な世代も対象なんだという表現のほうがいいのかなって思ったんです。

特に若手、次世代担い手育成という意味であるのであれば、ちょっと表現の仕方に工夫が必要かなと思った理由がちょっと私は違って、社会教育はシニアが前提なんだと。実際、そうなんですけど。先ほどの委員の発表も、大変すばらしい発表ありがとうございました。シニアの方の活動の場である、そこは大変大きな根拠にはなるんですけど、それを否定するわけではないんですけど、ここの表現は割とデリケートな部分で、重要かなとも思ったので、発言させていただきました。

○委員長

調査をするに当たって、委員がおっしゃったように、欲しい答えを前提に作ることは幾らでもできて、調査、作るって、結構、簡単ようで大変なんです。ただ、委員長じゃなくて個人的なコメントですけど、欲しい答えをもらって、やっぱそうだからこうしようというのはあまりにでき過ぎて話なので、ありていな現状が、だから、こう聞いたらこうしか答えてもらえなかったという現状こそが、こっちが次にどうするということを考えるベースになるから、伝わらないところ、平易な聞き方をするとか、こっちの聞きたいことは伝わるようには書きますが、選択肢は全て答えてもらえるようなものは入れたいねという前提でワーキングでも考えてました。

例えば現状のところは、「当てはまる」、「当てはまらない」の程度で聞いているわけですけど、地域の求めに合っているか、いないかを、どっちも聞いているってことです。社会教育に関わる人材の人数が地域の求めに合っていることについて、「当てはまってる」、「当てはまってない」を聞いている。

こっちとしたら、当てはまってる人が多いほうがいいけど、当てはまってないほうが多い結果になれば、それはそれで事実なので、その辺、なるべく平たく聞きたいというところは気を付けたいし。でも、ここを聞かなきゃというところがちゃんと伝わるようにということで、委員がおっしゃってくださったと思うので、その辺りの平易さは、とても検討の余地は大いにあるなと思っています。

意外と聞くって難しいんです。例示も難しいです。何も分からない人は例示に引っ張られて。私も実体験でありますけど、アンケートに何を学んでますかって聞いて、例えば太極拳と書いたら、太極拳が多くなった。みんな、ないというのは恥ずかしいなと思ったんでしょうね、太極拳って書いてきちゃって。太極拳が多いの何でだろうって分析してたら、例に太極拳って書いてあったからだ、これってなって。例示って怖いねってなるぐらい、向こうは楽に答えたいから、楽さをどっかに見つけようとするので、太極拳って書いとけばいいじゃんみたいに。太極拳だったら学んでも変じゃないんだ。いろいろあったと思うんです、ほんとは。大人の学びなんていっぱいあるから。でも、例示って怖いなと思って。

私、大学の授業でも、今から課題やってと言うときに、例えばねって言いながら、例えが例えじゃないような例えをなるべく言うようにして。それでないと、青い空とか書いてねと言うと、みんな、青い空、青い空、青い空って言えばいいんだみたくなっちゃう。委員のおっしゃったところも、そういうところへつながるのかもしれないです。でも、そういうことがないようにしたいなと、そこはいつも気を付けたいなと思っています。

私がこんなしゃべってちゃいけないので、ほかに。

委員、お願いします。

○委員

設問3で、選択肢1、2、3でどれに当てはまるかという設問の中で、一番上のポツは、社会教育に関わる人材と表現されておりまして、あと、4つ下の中ほどは、社会教育を担う人材という形で表現を変えており、この言葉で言えば、多分、担う人と関わる人とは意味合いが違うと思うのですが、ここはそういう意味合いでの質問ですか。

結構、今回のテーマが、社会教育に関わる人材がテーマであって、どんな人が社会教育に関わる人材で、これから必要かなというところを調査していくと思うんですけど、これを聞いて、私も社会教育委員ですので、これに答えようとした場合に、どんな人が関わってるのかなと考えた場合、今、私たちが協議してるような環境とかいろんな情報がないわけですから、もっと狭い範囲での答えになってしまうのかな、漠然とした答えが出てきてしまうのかなと気になりました。

ニーズが地域の求めに合ってるかというのと、ここも非常に難しい。だから、本当に感覚的な答えになってもいいのかなというのが、ちょっとありました。

設問4は、1つの答えを選んでくださいだけど、私が答えようとしたら、1つに絞るのが難しいかなというところがあって、これは1つでないと駄目なんですか。その辺もどうなるかなと思ったものですから、質問しました。

○委員長

たしか設問4は、思うものに丸を付けてくださいだと全部丸付けちゃうので、最も近いものを、優先順位が一番高いものを選んでほしいという意味合いです。

○鈴木

この答え方は、ポツが10個ぐらいじゃないですか。それぞれについて、1番は1番とか、2番目は3番とか、そういう答え方ですか。全体を含めて、どちらかといえば当てはまらないとか、当てはまるという答えにするんですか。

○事務局

設問の答え方について、設問3については、1から4の選択肢の中から選ぶことを想定しております。

○委員

全部ポツに対して、それを踏まえた上で、1番だよとか2番だよと、そういう答え方もあります
が。

○事務局

それぞれ1つずつについてです。1つずつについて、1から4で選んでいただく。1から4で選
ぶことが複数回ある、この設問の数だけあるということです。

○委員

そうですね。

○委員長

4は近いのだけを選ぶ。3は、各設問について、当てはまる、当てはまらない。ある意味、設問
3は、11問、全部答えることになります。

○委員

4番の1つは、ここは何か意味合いがあるんですか。

○委員長

最も近い、こういうふうになってほしい地域はいろいろあるでしょうけど、優先順位が一番高い
のはどれですかというのだけを聞きたいということです。

もうちょっと複数聞いたほうがいい？1つに決めるのはちょっと難しい。

○委員

1つに絞るのは難しそうな感じなので、例えば順位を付けて3つという聞き方をすれば、思っ
ているものをある程度あぶり出せるような聞き方になるかなと、提案したいと思います。

○委員長

委員もそういう感じで。

○委員

分かりますけど、1つに絞った主旨というか理由が何かあるんでしょうか。1つでないと、なかなか後でまとめるのが大変だとか、1つの回答にしてくださいという主旨みたいなものがあるんでしたらお聞かせいただけたらと思ひまして、質問しました。

○委員長

明確に傾向を知りたいなと思ったというところです。目指す地域を、皆さん、どう描いているのか。順位というよりは、これが一番強いみたいなのは分かったほうが、ゴールが見えやすいかなと思ったからです。

でも、選びづらいという現状があるのであれば、そこから傾向は見えるわけですから、その順位3つだとか絞る選び方であれば、そのほうがいいかなって思いました。

委員、お願いします。

○委員

設問3のポツ5つ目の社会教育を担う人材が、若手とか中堅の20代・30代、10代はどうなるのかなと思っていて。私が紹介してた事例だと、シニアさん、すごいたくさん出てきたなと思うんですけど、中学生もそうですけど、高校生とか大学生も、卓球にいっぱい来てくれてますし、漢字検定、本番の受付とか、地元の高校生とか、南小学校をと卒業した高校生とか大学生が、暇だから手伝いに行くよって、受付とか当日の準備、お手伝いに来てくれる子がたくさんいるので、10代も社会教育担ってくれてるよなって、これを自分で答えながら思ってたので、10代とかも入れてあげてください、お願いします。

以上です。

○委員長

設問5も関連して。でも、小学生だってね。

○委員

そうです、小学生。

○委員長

ゼロ代というの、私言えないけど。10代未満とか言えばいいのかな。

○委員

はい、10代未満。

○委員長

もありだなと思いますよね。

○委員

すごく思います。

○委員

世代のこともそうですし、先ほどの設問4で、1個選びにくいから、上位3つとか入れてすると、また書く人が、どれが一番、どれが2番、どれが3番か分からなくなっちゃうんです、集計をするときに。だから、もし上位3つにするんだとすれば、設問4も設問3と同じ形式にして、一番そう思うとか、あまりそう思わないとか、1、2、3、4、5。そうしたほうが集計しやすいと思います。

優先、上位3つというと、どれが一番で、どれが2番、どれが3番か、印とかそういうのできっちり明確に付けられる人が減ってしまうというか、その精度が下がってしまうので。

○委員

それだと、恐らく3と4は絶対付かないです。総計ですから。

○委員

そうか。

○委員

前の設問は現状を問うものなので、3とか4で答えることができます。しかし、設問4で3に付ける勇気は、多分、普通の社会教育委員にはないです。

○委員

確かに。どうすればいい。

○委員

2 もつけるのは難しくて、1 しかつかなくて、1 に固まってしまう。

○委員

差がつかない。

○委員

そういうことです。この設問形式で実施するのであれば、先ほど西村委員がおっしゃったように順位付けとか、あるいはもう少し工夫をして、当てはまるものを幾つか選んでくださいとか、そういう形で作ってみるとよいのではないかと思います。

○委員長

順位は付けなくて、複数は答えられるみたいな形でも。

○委員

そうすると、さっき委員がおっしゃったように全部になってしまうのではないのでしょうか。

○委員長

2 か 3 か選ぶみたいな。

○委員

特に重要なものを、その中から選ぶという方法はあります。

○委員

設問 4 は質問の仕方に気を付けたほうがいいよねということで、やり方については要検討かなと。
あと、ある程度素案が固まった段階で、いわゆるテスト、チェックができれば。

いや、社会教育に関わってるんだけど、そこまで社会教育のことを完璧に知ってるわけじゃない人に見てもらって、意味は分かるかどうか、チェックしたほうがいいかと思いました。以上。

○委員長

このお二人で発言を締めくくります。時間過ぎちゃって、私のコントロールが。委員、お願いします。

○委員

2つ。今の設問4は1つだけで、設問5は複数回答可で、そうすると4は1個選ぶのが大変で、5は複数にすると結局全部付くんじゃないかなということで、2つとか3つとか数を決めたほうがいいなと思うことと。

もう一つ、行政職員にも回答をお願いするということで、私も行政職員の一部として考えると、小さい市町だったら社会教育の担当で、そして担当というと、お一人、二人ぐらいで、その市町の社会教育の全ても、何となく頭に入れてらっしゃるようなところも多いのかなと思うんですが、うちみたいにいろいろ分かれてしまっていると、例えば、軸足が学校教育にある行政職員さんが答える場合と、生涯学習に軸足がある行政職員さんが答えるので、また違ってくると思うんです。

いい悪いじゃなくて、行政職員に答えてもらうなら、あなたのメインの分野はどこですかみたいなことを聞いといたほうが、学校教育メインの方、行政としてはこう思う、学校よりも成人とか、生涯学習がメインの人、行政職員はこう思っているというような、多少、差も見られるのではないかなと思いました。

以上です。

○委員長

委員、お願いします。

○委員

アンケートに記載されている社会教育委員とは、市町の社会教育委員全員に答えてもらうのでしょうか。

○委員長

そうです。

○委員

市町の社会教育委員が十人以上いても、全員にアンケートを答えてもらうのですね。

○委員長

はい。

○委員

設問の設置の仕方ですけど、設問3が『現状、どうですか』という形で、唐突に本題に入っている印象があるため、もう少し段階を経た方が良いのではないのでしょうか。最初に、今、あなたの市にどんな人材がいますか、どんな人材が必要だと思いますか、という自分の市町の現状を振り返った上で、今、現状がどうで、どう課題ですかというように進めていってはいかがでしょうか。突然、核心に切り込んでいくと、戸惑ってしまうと思うので、自分の市の現状を掘り起こして行って、最終的にこんな問題があったなとか、こういう課題があったなと思い起こせるような設問の設置がいいのかなと思います。

次に、表現の仕方になると思いますが、設問3の「地域の求めに合っている」とある地域の求めとは何でしょうか。求めがない地域もあるのでは。例えば、行政や地区センターから発信していて、特に地域から要望が無い場合、「そうした地域では求めとは何か」となるのではないかと。

それから、設問には団体が答えるようなものもありますが、個人で活動されている方はどうなのかなと思います。他にも「人材のバランスのとれた構成」とか、何をもってバランスが取れているとするのかとか。質問は、答える側の状況や環境によって、質問の捉えられ方が全然違います。万人が同じ受け止め方をするのは難しいと思いますが、なるべく同じような受け止め方をしていただけるような設問であるといいなと思いました。以上です。

○委員長

時間がなくなってしまったので、このほか、まだたくさん御意見、言いたいことはあると思いますが、事務局で受け付けてもらえればと思います。

次の段階では、これでほぼ行きたいんだという案を皆さんに御提示したいと思いますので、皆さんの御意見を伺った上で、ワーキング、委員長、事務局で検討したいと思います。よろしいですか。

また、そこについては御意見をいただければと思いますが、大方、決めていきたいと思いますが、その点、御了承いただければと思います。

今日、一番よかったのは、委員の活動を聞くことができたことかと思います。私もその御意見を聞いた上で、このアンケート、選択肢を考えると、もう少し改善の余地があるなと感じたところもありました。有意義な発表を聞かせていただけたところ、本当に今日はよかったかなと思います。

時間が伸びてしまって、申し訳ありませんでしたが、これで本日の協議を終了したいと思います。事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

本委員会の会議録については、本日から遅くとも3週間後までにメールにて委員の皆様にご送らせていただきます。御自身の御発言の部分を御確認いただきたいと思います。御協力をよろしくお願いいたします。

次回の第4回委員会は年間スケジュールのとおり、6月26日（木）場所は前回第2回と同じ、隣の部屋の別館9階特別第二会議室となります。その他、御不明な点等ございましたらいつでも事務局まで御連絡ください。事務局からは以上です。

○委員長

それでは、以上をもちまして第3回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。